

受賞パンフレット



“往来”と“all right”

—都市と農山漁村の共生・対流表彰事業—

第20回 オーライ!ニッポン大賞



主催：オーライ！ニッポン会議（都市と農山漁村の共生・対流推進会議）

協賛：一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構

「オーライ！ニッポン」とは

都市と農山漁村の間の“人・もの・情報”の往来（おうらい）を盛んにすることで、日本全国が元気（All right）になることをめざす国民運動「都市と農山漁村の共生・対流」のキャンペーンネームです。

第20回 オーライ！ニッポン大賞について

都市と農山漁村を相互に行き交うライフスタイルを広め、都市と農山漁村の双方が元気を取り戻すことをめざす国民運動について、その優れた取り組みを表彰する「オーライ！ニッポン大賞」も第20回を実施することができました。

これもひとえに現場で活動されている皆様のご尽力と、関係省庁をはじめ、関連団体及び地方自治体等関係者の皆様の温かいご理解とご支援の賜物であり、この場をお借りして心より感謝を申し上げます。

都市と農山漁村の共生・対流の活動の中心は、その地域に暮らす人々の自立的活動と都会からの応援により行われ、さまざまな取組が全国津々浦々発展してきております。

今回初の試みとしてオーライ！ニッポン大賞を募集するにあたり、「ふるさとプロボノ」との連携を応募の特典といたしました。地域活性化には、交流人口増加だけでなく、関係人口増加の重要性が高まっていることを背景に、この都市からのボランティアを仲介するプロボノ活動は、関係人口づくりの新たな切り口として期待されています。

活動の対外的な発信や運営基盤の強化及び効率化など、さまざまな課題を解決するための方策のひとつとして、主に都市部で活躍する経験やスキルをもつ企業人等によるプロボノ活動を取り入れる、連携のきっかけづくりを支援いたしました。受賞された団体等に限らず、応募された全ての取組がさらに前進されることを願っております。

さて、審査委員会の選考の結果、オーライ！ニッポン大賞グランプリ（内閣総理大臣賞）1件、オーライ！ニッポン大賞3件、審査委員長賞3件、ライフスタイル賞4件の計11件が決定しました。

グランプリに輝いた「特定非営利活動法人SET」は、震災復興の大学生インターンシップから民泊事業へと発展し多数の修学旅行生が訪問するなど、地域経済への波及効果も非常に大きく、絶え間なく人材の再生産を行っているところが先駆的と都市と農山漁村の共生・対流の新たなモデルとして高く評価されました。

そのほかにも、お米のC S A（地域支援型農業）プロジェクト、官民協力のもとワンストップパーソンを設置し、きめ細かな移住前後の相談支援の取組や地域の商品開発の支援や販路として地域に雇用と産業をもたらした道の駅、空き家を都市農村交流の資源として活用や農業の観光的な活用などにより「後継ぎのいるまちをつくる」取組など、他の地域においても大いに参考となる事例が多数あります。

個性的で魅力的なライフスタイルの実践者を表彰するライフスタイル賞では、老・壮・若それぞれ志向を上手に活かした生き方は、大変魅力的でした。

惜しくも受賞を逃された皆様の中にも魅力的な取組が数多くございました。今後、さらに充実した活動を継続されて再度のご応募いただきますよう、心からお待ちいたしております。

最後に受賞者の皆様をはじめ、関係するすべての皆様にこれまでの共生・対流に対するご尽力に感謝申し上げますとともに益々のご活躍とご発展を祈念いたしまして講評に代えさせていただきます。

令和7年10月31日

オーライ！ニッポン大賞 審査委員会
会長 竹本 田持

オーライ! ニッポン大賞グランプリ

特定非営利活動法人 ^{せ っ と} SET

内閣総理大臣賞

いわてけんりくぜんたかだし
(岩手県陸前高田市)



交流イノベーション部門

被災地復興から交流事業へ

大学生インターンシップ。2013年の事業開始以降、これまでに半年間活動する大学生スタッフが500人、1週間のプログラム参加者1,000人が陸前高田市で活動してきた。

大学生と関わる住民は年間600人を超えている。修学旅行民泊は2016年の民泊事業開始以降、2024年度までに300軒以上の民泊家庭がのべ14,000人の受入を達成した。受入家庭の収入は合計1億円を超えて、地域経済への波及効果も非常に大きい。

絶え間ない人材再生が先駆的

年間受入数は沖縄県伊江島、長野県南信州に次いで全国有数の規模に成長した。震災復興から始まり、いまでは陸前高田だけでなく近隣地域の交流コーディネートまで行うようになった取り組みは、非常に多岐にわたりかつ、絶え間なく人材の再生産を行っているところが非常に先駆的かつ他の被災地域の諸団体と違うところ。

これは共生・対流の新たなモデルだ！

こうしたプラットフォームがあることで、都市の若者が地域に入るきっかけとなり、そこから生まれる交流によって高校生などの地域人材の再生産につながっているところも含め、都市と農山漁村の共生・対流の新たなモデルとして高く評価された。

■連絡先 特定非営利活動法人 SET

〒029-2208 岩手県陸前高田市広田町字山田52-6

☎ 0192-47-5747

URL: <https://www.nposet.org/>

オーライ! ニッポン大賞

特定非営利活動法人 なるここめ 鳴子の米プロジェクト

みやぎ けん おおさき し
(宮城県大崎市)

元気な農山漁村部門



CSA（地域支援型農業）により山間地域の農が持続可能に

観光客がピークの半分200万人にまで減少。農業を辞める農家が増え、耕作放棄地が増加し、鳴子温泉の農村風景も失われようとしていた。鳴子の田んぼや農村風景、暮らしを守るため、平成18年に鳴子の米プロジェクトがスタート。CSA（地域支援型農業）を実践、山間地域の農を持続させている。また、食から農を考えるため、女性たちが働く公式おにぎり屋「むすびや」をスタートさせ、農と食の大切さを発信する拠点となっている。

次世代農家の担い手定着

今年で20年目を迎え山間地の農をあきらめず、持続に向け継続してチャレンジを行っている。できることを努力する姿は評価したい。山間地の生産条件不利地帯で農家と都市住民が消費を通じて支え合うCSAの先駆的な取り組みは、安定した食料供給を通じて都市と農村との関係を築き上げ、さらに次世代の農家の担い手が定着していると高く評価された。

■連絡先 NPO法人鳴子の米プロジェクト
〒989-6832 宮城県大崎市鳴子温泉字星沼77-84
☎ 0229-29-9436
URL: <https://www.komepro.org>

オーライ! ニッポン大賞

特定非営利活動法人 きみの定住を支援する会

(和歌山県紀美野町)



元気な農山漁村部門

学生若者カッパ・都市のチカラ部門

交流イノベーション部門

移住前後の相談・支援が手厚く人間的温かみがある

官民協力のもとワンストップパーソンを設置し、19年間きめ細かな案内相談に取り組み地域に移住した人は215人。移住後に生まれた子どもも30人ほどになり、過疎化、高齢化が進む農山村地域の担い手となっている。移住者の創業による経済効果は年間約2億円。地元の農産物を利用して飲食業や宿泊業を起業する者、農業を始めて耕作放棄地の再生に取り組む者、高齢農家の農作業を助ける者も生まれている。

なりわい創りを学ぶ学校からコミュニティ・ビジネスが生まれる

また、農山村の移住定住に欠かせない、なりわい創りを学ぶ「きみの地域づくり学校」に協力し、移住後のコミュニティ・ビジネスの立ち上げにも貢献している。

移住者に優しく寄り添う運営者たちの温かさを感じる。等身大の暮らしをそのまま紹介することを大切に、移住者の暮らしや仕事づくりを見守り、応援し、PRするというバックサポートの姿勢が貫かれていると移住者に寄り添う姿勢が高く評価された。

■連絡先 紀美野町美里支所 まちづくり課内 NPO法人 きみの定住を支援する会
〒640-1243 和歌山県海草郡紀美野町神野市場226-1
☎ 073-495-3462

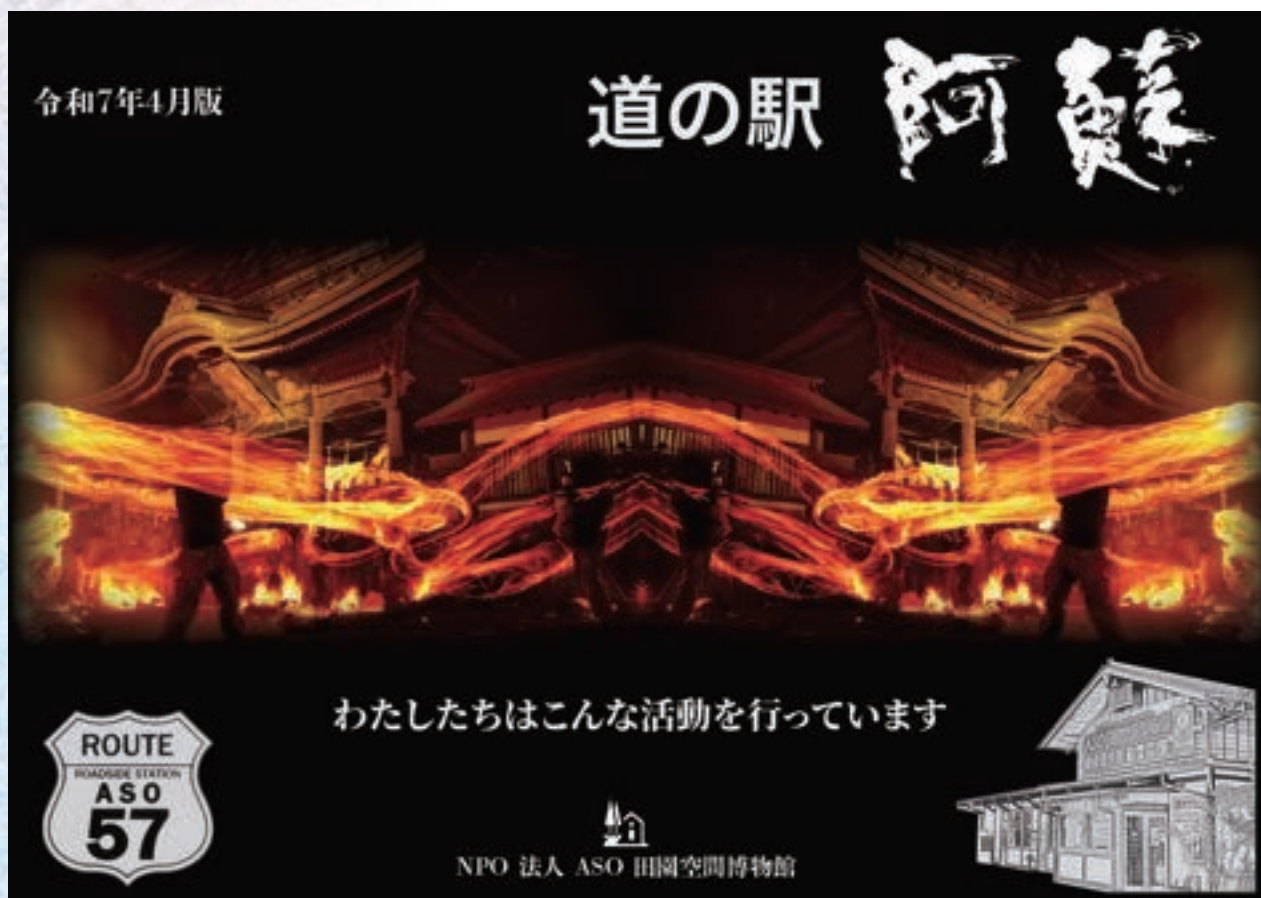
オーライ! ニッポン大賞

特定非営利活動法人 ASO^{でん えん くう かん はく ぶつ かん}田園空間博物館『道の駅阿蘇^{みち えき あ そ}』

(熊本県阿蘇市^{くまもとけん あ そ し})

元気な農山漁村部門

交流イノベーション部門



屋根のない博物館、観光、ボランティア活動、そして道の駅と発展拡大

地域全体を屋根のない博物館と見立てた田園空間博物館事業を継続させながら、道の駅を指定管理者として運営。地域行政、農業、観光、ボランティア等と連携する運営体制により、地域特産品販売、商品開発、地域住民との連携等の改善が進み地域経済及びコミュニティの核として活躍している。業績が低迷していた該当施設を発展させただけではなく、地域のボランティアと連携した地域散策イベント「阿蘇市をさるこう!」や留学生や台湾の人々と継続的に行っている国際交流事業、阿蘇の風景と特産品を楽しみながら行うサイクルツーリズム、阿蘇の草原を活用した牧野ガイドなど、従来の道の駅にない多くの関係人口を増加させる事業を実施している。

運営を大きく変えて地域への経済効果が増大

また道の駅の地域生産物販売比率は42%から86%に上昇した。この結果には、地域の商品開発を支援する制度の創設や、新商品開発への積極的な取り組みを地域に促す活動が影響している。これらの仕組みは全国モデルとして広めたい仕組みとして高く評価された。

■連絡先 特定非営利活動法人 ASO田園空間博物館
〒869-2401 阿蘇市黒川1440-1
☎ 0967-35-5077
URL: <https://www.aso-denku.jp/>

オーライ! ニッポン大賞 審査委員会長賞

ノートルダム清心女子大学×百姓のわざ伝承グループ

(岡山県岡山市・高梁市)



元気な農山漁村部門

学生若者カッヤク・都市のチカラ部門

交流イノベーション部門

一時はすたれかけた茶畑が大学との交流により拡大

岡山県の北西部に位置する高梁市では、2013年以降、百姓のわざ伝承グループの荒廃茶園再生活動によって、高梁紅茶専用の茶畑が拡大した。文学部現代社会学科の二階堂ゼミでは、フィールドワークの体験を通して、地域課題の実態を多角的に学びつつ、課題解決に向けた主体性や実践力を培うことをめざしており、その一環として、当初からこの活動に応援隊として関わっている。

科学的手法の支援により茶特性解明、生産量と販路も拡大

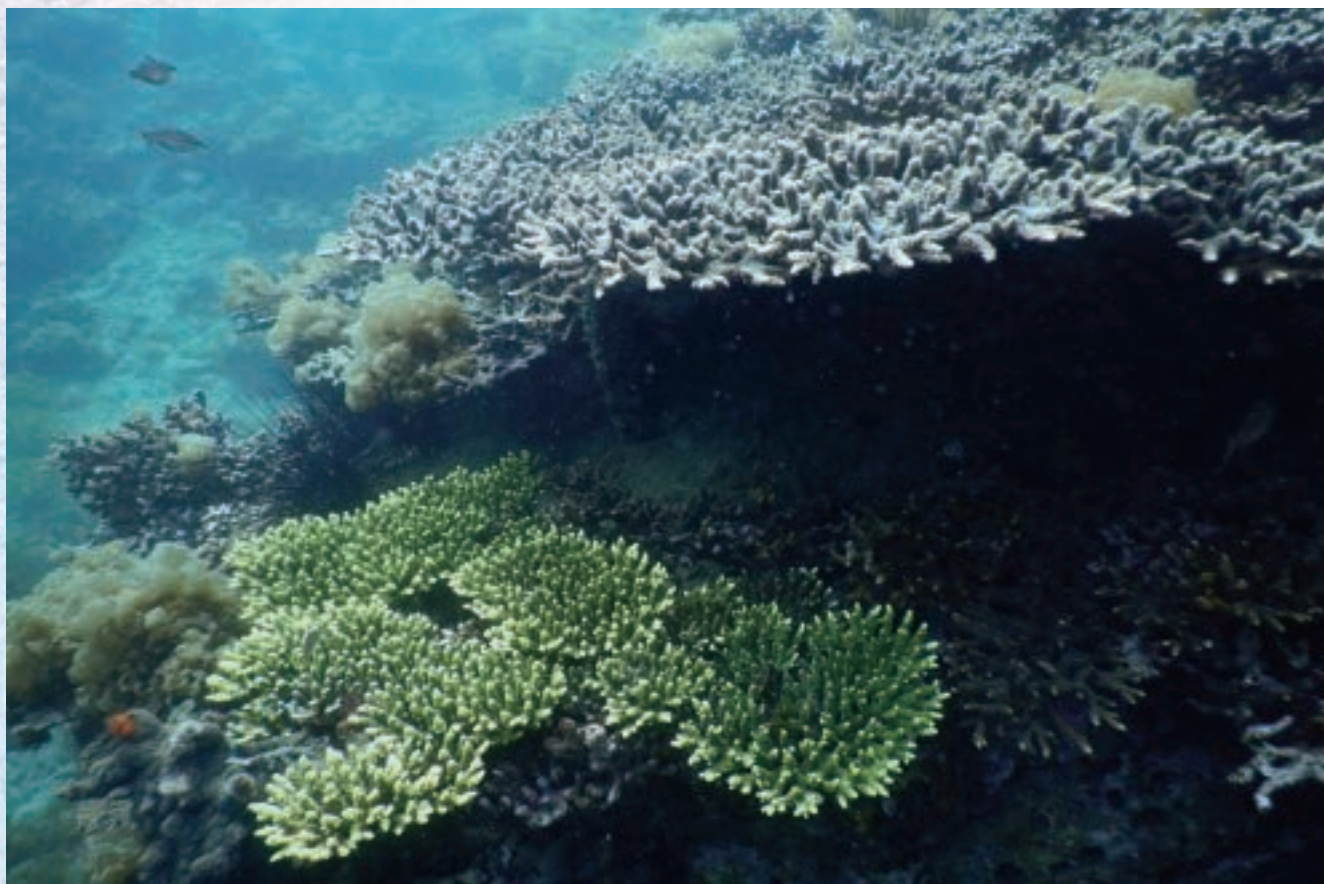
さらに、2019年以降、同大学人間生活学部食品栄養学科の吉金ゼミの学生が加わり、茶葉の科学的分析を通じて、高梁紅茶の特性解明にも尽力している。産学連携の効果で、2024年は紅茶の茶葉の栽培面積が50a、生産量が600kgにまで拡大したほか、緑茶から変更し紅茶用として茶葉を提供する農家が4軒増えた。また、高梁紅茶の取次店も16年間で約95店舗に拡大した。さらに、ストレートティのほか、ゆずや生姜、レモンを加えた新商品も生まれ、それらを学生自らが販売する取り組みを通じて、高梁紅茶はもちろん、高梁市の魅力発掘・発信にも貢献している。

■連絡先 ノートルダム清心女子大学文学部現代社会学科
〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9
☎ 086-252-1155

やったろう^{たか しま}de高島

ながさき けんながさき し
(長崎県長崎市)

元気な農山漁村部門



サンゴや熱帯魚のある環境を生かしたシュノーケリングピクニック

軍艦島に最も近い有人島(離島)。石炭の閉山により人口1万8千人から234名の過疎と高齢化の歯止めのかからない地域、美しい海の生物資源を活かしたエコツーリズムを地道に展開し、コロナ禍を乗り越え、やっと自然教育の最適の場として効果を上げてきている。

美しい海を守り続けるための正しい知識を多くの人たちと共有する

サンゴや熱帯魚のある環境を生かしたシュノーケリングピクニックが魅力的なだけでなく、海の環境講習など正しい知識を多くの人たちと共有する機会をつくり続けているところが好ましい。知識と体験を両輪とし、中高生への教育機会をつくっている。こどもや若者の海離れが進む中で、今後も頑張ってもらいたい取り組みであり教育効果だけでなく、地域の自然を誇りに思うような資源の活用・環境の保全への姿勢は、必ずもっと求められることになるであろうと高く評価された。

■連絡先 やったろうde高島

〒851-1315 長崎県長崎市高島町2709番地5

☎ 090-9608-1082

URL: <http://nagasaki.web.fc2.com/de/>

オーライ! ニッポン大賞 審査委員長賞

特定非営利活動法人 顚娃おこそ会

かごしまけんみなみきゅうしゅうし
(鹿児島県南九州市)



元
気
な
農
山
漁
村
部
門

総力を挙げて空き家活用や農林漁業体験を現代風にアレンジ

「後継ぎのいるまちをつくる」に則したプロジェクト制により都市との交流及びその資源となる空き家の活用、農業の観光的な活用により各種プロジェクトに取り組み農山漁村が本来持っている者を地域内の様々な人々と連携することで地域の活力が蘇っている。自営業、農業、農協、市役所、議員など多くの分野の方々が参加。文字通り町の総力を挙げての取り組みだ。空き家を活用し、農林漁業の体験を現代風に活用して都市生活者のリフレッシュ休暇やインバウンドの促進を図っている。

住民がそれぞれ好きで楽しくやることで多数のプロジェクトが自律的に進行

オーソドックスな方法だが、町全体が動くことで機能している。このエリアの魅力を地元住民自身が正確に把握し、尊重しながらのびやかに発展させていく活動であることが読み取れる。ひとつひとつの取り組みに派手やかさはないが、住民たちがそれぞれ好きで楽しくやっているという明るさが伝わってきて、元気な農山漁村の未来を感じると高く評価された。

■連絡先 特定非営利活動法人 顚娃おこそ会

〒891-0704 鹿児島県南九州市顚娃町別府5202 いせえび荘内

E-mail: chika10013631@yahoo.co.jp (理事長 瀬川知香)

URL: <https://ei-okosokai.jimdofree.com/>

オーライ! ニッポン大賞 ライフスタイル賞

いま い りょう すけ
今井 亮輔 氏

ほっかいどう そうべつちよう
(北海道壮瞥町)



豊かな自然に引きこまれて、好きなものを売る商店を立上げた

昔から、豊かな資源を持っている田舎が大好きで、田舎の豊かさを守っていききたい、そのためには都会生活者の需要と、田舎の豊かな資源を結びたいと考えていた。40歳を前に、洞爺湖畔でほんやりと湖に移る雲や中島を眺めている時に「ここに住みたい!」と強く感じ、自然派ワインやチーズなどを集め、地域の農作物や加工品、観光資源といった豊かな資源を楽しんでもらうことで、都会生活者とのよい循環が生まれると考えて2021年11月に地域おこし協力隊に着任し、2022年8月には地域の方々の協力も得ながら無事に「ヨツカド商店」というワインやチーズなどの小売店兼カフェをオープン。北海道地域おこし協力隊ネットワークの副代表幹事の1人として活動もしている。オンラインコミュニケーションを活用して北海道の小さな町に住んでいても東京も北海道でも同じ条件でビジネスもできる。そうした可能性を切り開いてくれると感じられるとその将来性を高く評価された。

■連絡先 〒052-0101 北海道有珠郡壮瞥町字滝之町385-11
E-mail: ryosuke@yotsukado-shouten.com
FACEBOOK: <https://www.facebook.com/ryosuke.0414>

オーライ! ニッポン大賞 ライフスタイル賞

いし ざか しん ご
石坂 真悟 氏

やまなしけん こ すげむら
(山梨県小菅村)



現場に即した実践的なプログラムづくりと地域の文化の継承にも貢献

東京農大と小菅村との協働の取り組みである源流大学の実習や村の資源のプログラム化を、地域おこし協力隊員とともにブラッシュアップしている。源流大学では、体験を重視していた実習から、販売を見込んだ野菜づくりや商品開発に向けたブランディング講座等を盛り込み、より農山村の現場に即した実践的な実習を行えるように計画を立てている。現在は、妻と2歳の娘の3人で隣の市に住んでいるが、仕事も暮らしも充実。休日は村のイベントに参加したり、最寄り駅から農作業に参加する方をピックアップしたりして娘と村に向かうなど、隣市に住んだことにより、村（駅がない）へお連れすることができるようになった。

過疎高齢化した山村地域の伝統芸能の継承するために、地域の伝統芸能の舞手やリーダーも務め、地域住民の安全安心を守る消防団にも移住当初から所属し、現在も部長の役職に就き活動をおこなっている。

過疎高齢化した山村地域の伝統芸能を守り、農山村に住む人々の知恵や文化の継承に力を入れている。さらに、多摩川流域の地域との連携を図るなど源流地域の活性化だけでなく流域全体の活性化にまで発展していることを高く評価された。

■連絡先 特定非営利活動法人 多摩源流こすげ

〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村字白沢1911

☎ 0428-87-7055

FACEBOOK: <https://www.facebook.com/shingo.ishizaka>

オーライ! ニッポン大賞 ライフスタイル賞

くろ かわ き み え
黒川 喜美恵 氏

とくしまけん あ なん し
(徳島県阿南市)



農業とパン屋と子ども食堂、学童保育の運営を通じて子育て支援にも

震災が起きて流通が止まった時、お金があっても食べものがないのだと痛感した。作れる人になりたい、作れる場所に暮らしたい思いが募り「作る」ができる場所を探し、未知の土地に移住した。近所の人から借りた畑を耕し農作業をスタート。暮らし始めた地域は水が綺麗なところで稲作が盛んだが、お米の消費量は減っていたので何か加工品にできないかとパンを焼き始めたところ地域にパン屋がないからと熱望され週に一度営業のパン屋を開業。同じころ、子どもが通う学校に学童保育がなく鍵っ子になってしまうのが心配で学童保育を立ち上げた。「子どもたちが地域の人たちをもてなす食堂」として「子どもの食堂」も立ち上げた。食を大事にし、「自分でつくる」ことの楽しさを伝播させているライフスタイルは高く評価された。

■連絡先 E-mail: saikai3151@gmail.com

わた なべ とく ろう
渡辺 督郎 氏

ながさき けんさい かい し
(長崎県西海市)



ゲストハウスの主兼、週一やってるビアホールの店主

26歳の時、青年海外協力隊事業に参加。帰国して自分の生まれ故郷の過疎化が気になり始めた。30歳の時、空き家になっていた祖母の家で学習塾を始めた。

1999年地域回遊型のイベント雪浦ウィークを企画、運営を始めた。このイベントをきっかけに地域づくりに真剣に取り組むこととなる。

2015年に地域づくりNPO法人を立上げて仲間たちと、ウェルビーイングを感じられる地域を創ろうと、日夜、地域資源を生かした観光地域づくりに取り組んでいる。

2022年には、株式会社ゆきのうらを立上げ、オスピタリタ・ディフーザ雪浦というタイトルで分散型のおもてなしに取り組んでいる。1人、1軒、1店舗が頑張るのではなく、地域で連携して、宿泊、飲食、体験をそれぞれが担いながら、訪れる人も、迎える人も、楽しみながら活動できる地域を目指している。地域に居酒屋はないものの、週1、金曜日だけのビアホールを開催、地域の人々と旅人たちの出会いの場にもなっている。

地域のお店の閉店という事態にも仲間を巻き込み救うのはもはやこの人しかいない、という存在感は高く評価された。

■連絡先 NPO法人雪浦あんばんね
〒857-2328 西海市大瀬戸町雪浦下釜郷504
☎ 0959-31-4071
URL: <https://yukinoura.net/>

第20回オーライ！ニッポン大賞の概要

趣 旨

都市と農山漁村の共生・対流に関する活動を行いながら、交流の拡大や地域活性化に寄与した団体・個人、及び都市と農山漁村双方の生活や文化を楽しむライフスタイルを実践している個人を表彰し、その活動を広くPRすることで農山漁村を舞台とした新たなライフスタイルの普及推進を図ることを目的としています。

表彰対象・審査基準

オーライ！ニッポン大賞

「都市側から人を送り出す活動」、「都市と農山漁村を結びつける活動」、「農山漁村の魅力を活かした受入側の活動」等を通じて、都市と農山漁村の共生・対流の拡大に寄与した実績や効果の高い団体又は個人。

(1) 募集の対象

- ・学生若者カッヤク都市のチカラ部門…主に30代までの若者の活躍や都市側からの働きかけにより推進されている活動
- ・交流イノベーション部門……………新型コロナウイルス禍により、新たにはじめられた農山漁村支援の取り組み
- ・農山漁村イキイキ部門……………主に農山漁村側からの働きかけによって推進されている活動

(2) 表彰の種類

オーライ！ニッポン大賞グランプリ（内閣総理大臣賞）1件

オーライ！ニッポン大賞 3件程度

審査委員長賞 数件

(3) 審査の基準

新規性	農山漁村地域を舞台に新ライフスタイルの提案、普及の取り組み。
独自性	地域固有の資源や個性を活かした、オリジナリティ豊かな取り組みであること。
持続性	法人化や収益向上等により、持続性の高い取り組みであること。
モデル性	他地域への応用や波及が期待できるモデル性の高い取り組みであること。
効果性	農山漁村地域を活性化する効果があり、今後も効果が持続して発現すると見込まれること。
社会性	地域の内外の多様な主体が参加連携し、地域の課題解決に取り組んでいること。

オーライ！ニッポン ライフスタイル賞

都市部から移住したU・Iターン者もしくは都市と農山漁村を行き来する二地域居住者等のうち、農山漁村地域において共生・対流の活動に取り組みながら、魅力的なライフスタイルを実践している個人。

(1) 表彰の種類

ライフスタイル賞 3件程度

(2) 審査の基準

新規性	農山漁村を舞台とした新たなライフスタイルの実践やコロナ禍での工夫したもの。
独自性	個性的で魅力のある活動であること。
継続性	新たなライフスタイルの実践に継続性があること。
モデル性	新たなライフスタイルが他の人の参考となるものであること。

第20回オーライ！ニッポン大賞審査委員会の構成

会長	竹本 田持	明治大学農学部教授
	蝦名 邦晴	一般社団法人日本旅行業協会理事長
	岡島 成行	公益社団法人日本環境教育フォーラム 会長
	嵩 和雄	國學院大学 観光まちづくり学部 准教授
	嵯峨 生馬	特定非営利活動法人 サービスグラント ファウンダー
	馬場 未織	特定非営利活動法人 南房総リパブリック 理事長
	平野 啓子	語り部、かたりすと、大阪芸術大学放送学科教授（オーライ！ニッポン会議副代表）

オーライ！ニッポンの代表的な取組

(過去のグランプリ・内閣総理大臣賞の受賞者)

	2023 年度 第 19 回 特定非営利活動法人 グリーンウッド自然体験教育センター 長野県泰阜村 信州こども山賊キャンプは、ひと夏で 1100 人の小中学生と 400 人もの青年ボランティアが集う“行列のできるキャンプ”。また、1 年間の山村留学などにより、若者の U・I ターンが増え青年団復活。山村留学の卒業生が I ターンで村に定住も始まり、限界集落の消滅に寄与。
	2020 年度 第 18 回 一般社団法人 竹田文化共栄会 福岡県坂井市 地区外からの若者とも連携し将来ビジョンを策定しビジョンに基づき、廃校をリノベーションした体験型宿泊施設「竹田農山村交流センターちくちくぼんぼん」のオープンや県内外の大学生が空き家拠点活動により、雇用増、女性の雇用と大きな成果を挙げている。
	2019 年度 第 17 回 一般社団法人 そらの郷 徳島県三好市 体験型教育旅行や一般客向け地型旅行の活動を展開。農家民泊を中心に、急傾斜地での農作業、田舎料理作り、かすら細工、阿波おどり、交流をプログラム化し、日本の原風景として、内外から高い関心を呼んでいる。
	2018 年度 第 16 回 農業法人 株式会社 秋津野 和歌山県田辺市 豊かな柑橘類と南高梅の産地。住民合意のもと 489 名の住民出資のコミュニティビジネスを展開、農家レストランやミカンの樹オーナー制度等と合わせた地域づくり学校など、コミュニティビジネス成功モデルとして高く評価。
	2017 年度 第 15 回 株式会社 信州せいしゅん村 長野県上田市 2002 年に農村のありのままの暮らしを体験する（農作業・自然散策・家庭生活を一緒に行う）『ほっとステイ事業』を民間事業として開始し、2006 年からは海外からの農村体験ホームステイ受入を開始。全域の年間受入者数は約 2 万人。
	2016 年度 第 14 回 NPO 法人 トチギ環境未来基地 栃木県益子町 人手不足で荒廃が進む中山間地域の里山や森林を若者の力で再生。参加者は 7 年間で 1 万 3 千人を超える。
	2015 年度 第 13 回 夢の音村「森の公民館」サウンドファイブ夢の音会 島根県浜田市 これまでに 150 回を超える自らのステージ活動や 40 回近いコンサート企画活動（音楽や演劇など優れた舞台文化の招致）など、1968（昭和 43）年から始まった 47 年間の音楽・文化活動は、住民からの理解や認知を受けて町の“顔”として定着。
	2014 年度 第 12 回 NPO 法人 東村観光推進協議会 沖縄県東村 グリーン（農業体験）、ブルー（漁業体験）、エコ（自然体験）の各部会が協力し、農漁家や地元ガイドが直接参加者と交流する、ほんもの体験型観光により地域活性化。大宜味村や国頭村など隣接地域とも連携し、地域資源を総合的に活用
	2013 年度 第 11 回 おうしゅうグリーン・ツーリズム推進協議会 岩手県奥州市・平泉町 農村生活体験型の教育旅行を企画・受け入れている。震災から 2 か月後には受入を再開。長年交流を続けてきた学校からの支援を励みに、安全管理体制の強化や誘致活動等に努めた結果、震災から 2 年目の 2013 年には震災前の受入規模を回復。
	2012 年度 第 10 回 震災復興・地域支援サークル ReRoots 宮城県仙台市 東日本大震災の甚大な津波被害から、畑に埋もれたガレキを農業機械を痛めないように手作業で除去。作付支援、農業機械貸出、市民農園やスタッフ自ら野菜づくりを行う農園の開設、復旧後の畑で農家が作った野菜の販売などに取り組む。
	2011 年度 第 9 回 (財)新治農村公園公社 群馬県みなかみ町 地域の主産業である農業と観光を結びつけた地域活性化として取り組んだ「たくみの里」、体験施設を各集落に配置する分散型施設づくりを行い、広く農村空間の景観を守ると同時に集落全域に誘客する効果を生み出している。
	2010 年度 第 8 回 ふるさと体験学習協会 岩手県久慈市 山や海など豊かな自然を活かした体験や、昔ながらの知恵や技術、食文化の継承など様々な体験プログラムにより教育旅行・体験旅行の受入を行い、交流人口の拡大と受入者との交流によって地域経済の活性化と地域の元気づくりの元になっている。
	2009 年度 第 7 回 大地の芸術祭実行委員会 新潟県十日町市・津南町 世界でも有数の豪雪地帯である越後妻有では、世界のアーティスト、文化人、研究者、都市のサポーターと住民が協働し、3 年大祭「大地の芸術祭」を開催。広大な大地に約 200 の現代アートが常設されている。
	2008 年度 第 6 回 NPO 法人 おぢかアイランドツーリズム協会 長崎県小値賀町 島のワンストップ窓口として、おぢかの島旅をコーディネート、オリジナルプログラムの組立から体験料の収受までを一括実施。町から委託で、無人島・野崎島にある宿泊施設「野崎島自然学塾村」を通年営業し、売上の一部を環境保全基金として町に寄付。
	2007 年度 第 5 回 幡多広域観光協議会 高知県四万十市 6 市町村が連携し、1997 年に全国に先駆けて環境体験型教育旅行の受入組織として設立。各地域をネットワーク化し、現在では 100 を超える体験プログラムを提供し、インストラクターも 500 名を超える。
	2006 年度 第 4 回 NPO 法人 体験観光ネットワーク松浦党・松浦体験型旅行協議会 長崎県松浦市 長崎県北松浦半島地域を舞台に、「松浦党の里ほんまもん体験」を展開。1 日最大 2000 名が対応可能な民家泊と農村・漁村を舞台とした豊富な体験プログラムで修学旅行生を中心に受け入れている。
	2005 年度 第 3 回 青森県南部町 「さくらんぼ狩り」から始まり、農業体験、郷土料理、地域文化を活かした交流形態を確立。2004 年には、「バーチャルビレッジ『達者村』」を開村。
	2004 年度 第 2 回 兵庫県八千代町（現 多可町） 滞在型市民農園や宿泊交流施設、加工体験施設などの整備と併せ、農林業体験ツアー等の都市住民の受入、交流人口の増大、定住人口の増加を通じた、地域経済の活性化、地域の所得増大をもたらした。
	2003 年度 第 1 回 長野県飯田市 体験型観光専門の第 3 セクターである樹南信州観光公社を立ち上げ、400 戸以上の農家の協力を得て、年間 220 校に及ぶ小・中・高校の修学旅行を受け入れている。



第20回オーライ! ニッポン大賞受賞者 一覧

オーライ! ニッポン大賞グランプリ

1 岩手県 陸前高田市

特定非営利活動法人SET

オーライ! ニッポン ライフスタイル賞

8 北海道 壮瞥町

今井亮輔 さん

9 山梨県 小菅村

石坂真悟 さん

10 徳島県 阿南市

黒川喜美恵さん

11 長崎県 西海市

渡辺督郎 さん

オーライ! ニッポン大賞

2 宮城県 大崎市

特定非営利活動法人
鳴子の米プロジェクト

3 和歌山県 紀美野町

特定非営利活動法人
きみの定住を支援する会

4 熊本県 阿蘇市

特定非営利活動法人
ASO 田園空間博物館道の駅阿蘇

オーライ! ニッポン大賞審査委員長賞

5 岡山県 高梁市

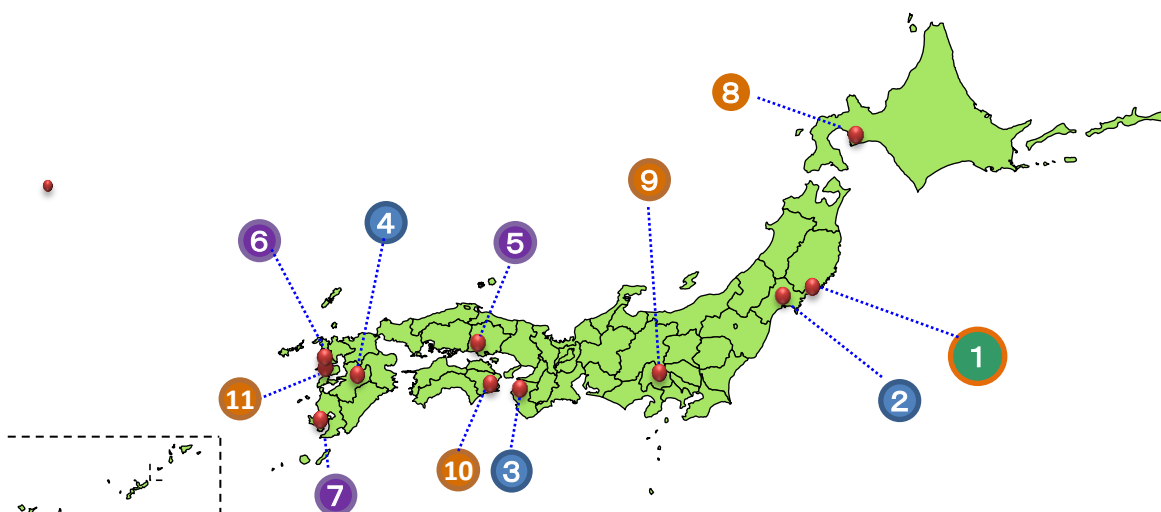
ノートルダム清心女子大学
×百姓のわざ伝承グループ

6 長崎県 長崎市

やったらうde 高島

7 鹿児島県 南九州市

特定非営利活動法人
穎娃おこそ会



オーライ! ニッポン会議 事務局

〒101-0044東京都千代田区鍛冶町1-9-11石川COビル3階

TEL 03-6206-0957 FAX 03-6381-0739 ホームページ <https://www.kouryu.or.jp/service/ohrai.html>

「オーライ! ニッポン会議」の事務局を構成する20団体

(公社)全日本郷土芸能協会 (一財)日本青年館 (公財)日本修学旅行協会 (公財)全国修学旅行研究協会
(公社)日本観光振興協会 (公社)日本青年会議所 日本商工会議所 全国商工会連合会 (一財)伝統的工芸品産業振興協会
(一財)地域開発研究所 (公財)日本離島センター (公財)都市計画協会 (一財)地域活性化センター (公財)育てる会
(公財)パブリックヘルスリサーチセンター (公社)日本環境教育フォーラム 全国水土里ネット(全国土地改良事業団体連合会)
全国森林組合連合会 (一財)漁港漁場漁村総合研究所 (一財)都市農山漁村交流活性化機構